

○クリティカルシンキングで「考える力」を鍛えよう！

ロジカルシンキングは「物事を体系的に整理して筋道立てて考える」ためにあります。それに対してクリティカルシンキングは「考えが本当に正しいのかを検証して本質を見極める」ためにあります。

“critical”とは「批判的」という意味です。文部科学省が提案している“21世紀型能力”の中に、“批判的思考力”というものがありますので、この機会に覚えておくと良いでしょう。

物事に「なぜ?」「どうして?」「本当に?」と疑問を持って考えることで、当たり前だと思っているようなことでも新たな発見ができたり、より客観的に考えを進めたりすることができるようになることがクリティカルシンキングのメリットと考えられます。

ますますグローバル化が進み、激しい変化が起きている現代社会では、情報や現状を鵜呑みにせず、自分の頭で考える力が必須になっています。簡単なテストのように○×がはっきりと決められるものと違い、社会における答えは一つではありません。ある問題に対する答えを導いたとしても、もう一度やり直すと別の答えが出てくる可能性もあります。

つまり、クリティカルシンキングでは「問い続ける」姿勢が重要であり、一度出した答えに対して「本当に合っているか」と問いかけたり、時間を空けて再度やり直したりすることで別の答えに辿り着くこともあります。

発明家のトーマス・エジソンは、幼少期に“Why?”を連発して先生を困らせていたそうです。「友だちがやっているから」「〇〇先生に言われたので」と、訳も分からずやるのではなく、客観的に理解した上で“自分のこと”として行動するように心掛けましょう。

○お互いを理解して歩み寄ること

問題行動における指導措置の中に“謹慎”があります。謹慎中の生徒と話をしていると、一様に「友だちと会えなくて寂しいです。」と言ってくれます。そのような状況になる前に感じて欲しいのですが、友だちの有り難さに気付く機会を得られたことは、決して無駄にはならないはずです。

ところが、「あいつがミスしなければ勝てたのに!」「あの子が無視するから嫌いだ!」など、コミュニケーションが少ないチームやグループの特徴は、責任を他の人になすりつけてしてしまうことです。

本当は「チームのために必死でやったら、つい、力みが出てしまった」結果かも知れませんが、「別のことに集中していて、隣の人に言葉が耳に入らなかった」だけかも知れません。それにも拘わらず、お互いに「何を言っても無理だ!」などと、心を閉ざしてしまうことは危険です。

人はそれぞれ育ってきた環境が違うので、大切にしている価値観も人それぞれです。まずは、お互いの大切にしている価値観を知ることが大切です。しかし、それだけでは心の距離を縮めることが難しいかも知れません。

次にやるべきことは、歩み寄ることです。「え、そうだったの?なぜだろう?」と関心を持ち、まずは理解しようとする姿勢を持つことが大切です。お互いが大切にしている価値観を知ることによって信頼関係を深め、組織や集団としての大切にしたいことを整えていくことができます。同じクラスや部活動に所属しているからこそ、互いに大切にしている価値観を知り、歩み寄る機会をつくりましょう。

“始まりは歩み寄り、分裂しなければ進歩で、力を合わせることであれば成功である。”

by ヘンリー・フォード(自動車会社フォード・モーターの創設者)